



Title	命の危機にある人びとのために
Author(s)	久留宮, 隆
Citation	目で見るとWHO. 2021, 77, p. 22-23
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/86474">https://doi.org/10.18910/86474</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 命の危機にある人びとのために



国境なき医師団(MSF)日本  
会長 外科医  
**久留宮 隆**

三重大学医学部卒業。外科医として病院に勤務し、手術室部長、診療部長などを歴任した後、2004年よりMSFに参加。計15回の派遣を経験。2020年3月より現職。

国境なき医師団に参加し、私が初めて派遣されたのは西アフリカのリベリアでした。17年前のことです。私の専門は消化器外科ですが、現地では半数以上が産婦人科の患者さんたちでした。避妊知識の欠如や強制的な性交により10代で妊娠する女性が後を絶たなかったり、多妊多産で、危険な出産を繰り返したりするからです。それまで日本では、一つの病院で年間200～300件程度の手術をチームで行っていましたが、そのプロジェクトでは3カ月の派遣期間で約350件をほぼ1人で執刀しなければなりません。

人道援助活動の現場では、ときに医療設備が整っていないことや、自分の専門外の対応を迫られることもあります。ですが、過酷な状況にある患者さんのニーズに応えるべく最善を尽くし、苦しみを和らげることを目指して、私たちは日々取り組んでいます。

## 命の危機にさらされた人びとを医療で救う

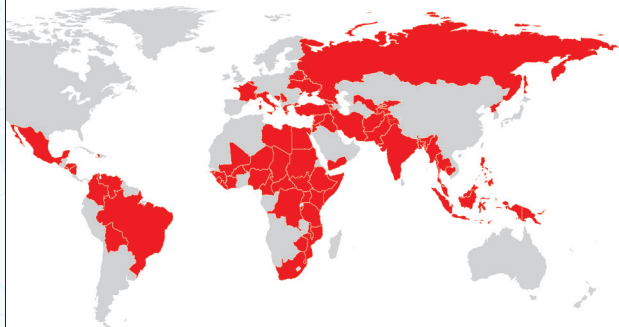
いま世界には、およそ7950万人もの難民や国内避難民、庇護申請者がいるとされています（UNHCR調査）。この数字は第二次大戦以降、過去最多で、現在97人に1人、つまり全人類の1%が故郷を追われ、苦しみの中で暮らしていることとなります。そもそもこのような難民が生まれる原因となるのは、紛争や自然災害、貧困などです。安全を求めて、長い距離を命の危険にさらされながら移動しているのです。

国境なき医師団（Médecins Sans Frontières=MSF）は、このような人びとに医療を届けるとともに、その人たちの置かれた窮状を国際社会に向けて発信するため、フランスの医師やジャーナリストらによって1971年に設立されました。医療・人道援助活動を行う非営利の国際団体として、緊急性の高い医療ニーズに応えることを目的としています。

MSFのプロジェクトは世界70カ国以上で同時進行しており、その内容は多岐にわたります。紛争や暴力から命から逃れた人たちが集まる難民キャンプでは、診療のほか、予防接種や健康教育を行います。病院が破壊され、負傷者が数多く出る紛争地では、外科手術や治療、そして精神的な傷を負った人への心のケアも欠かせません。栄養失調が深刻な地域では、カロリーだけでなく必要な栄養素も満たせる治療食を用いて、治療や予防に取り組んでいます。

また、大規模な自然災害への対応では、発生から48時間以内に緊急援助を始める体制を備えています。一方で、適切な医療を受けることが難しい途上国や貧しい地域では、総合的な医療サービスを提供し、紛争などにより交通手段がない孤立地域も対象です。そのほか、低所得国で使用できる薬や診療法の開発を後押しする活動も行っており、これは1999年のノーベル平和賞受賞による賞金をもとに、DNDiという組織を設立することで始まりました。

世界各地のMSFプロジェクト (2019年)



## 国境なき医師団 憲章

国境なき医師団は苦境にある人びと、天災、人災、武力紛争の被災者に対し、人種、宗教、信条、政治的な関わりを超えて差別することなく援助を提供する。

国境なき医師団は普遍的な「医の倫理」と人道援助の名の下に、中立性と不偏性を遵守し、完全かつ妨げられることのない自由をもって任務を遂行する。

国境なき医師団のボランティアはその職業倫理を尊び、すべての政治的、経済的、宗教的権力から完全な独立性を保つ。

国境なき医師団のボランティアはその任務の危険を認識し、国境なき医師団が提供できる以外には自らに対していかなる補償も求めない。

## 広範囲にカバーする組織力

※すべて2019年実績

### 世界のプロジェクト数

437

活動国 70 以上

事務局数  
38

### 外来診療数

10,384,000 件

世界のプロジェクト数は紛争地や難民・避難民キャンプ、自然災害の被災地、HIV・結核・マラリアといった感染症の流行地域や医療のない地域を対象としたプロジェクトが主です。

①

## 世界中からの支援

※2019年実績

### 民間寄付者数

6,500,000 人・団体

活動資金の約96%は民間からの寄付です。公的資金の割合を抑えることで、資金の独立性・透明性を保ち、迅速かつ自由な援助活動を実現しています。

②



©MSF/Laurence Hoening

3



©Brian Sokol/Panos Pictures

4



©Yuko Shirakawa/MSF

5

- ① 広範囲にカバーする組織力 ② 世界中からの支援 ③ 栄養失調を患い栄養食を摂る女の子  
④ ネパール地震で対応にあたるスタッフ ⑤ イエメンで医療に従事する日本人スタッフ

## 活動の原則は 「独立・中立・公平」

MSFは今年でちょうど設立から50年を迎えますが、「独立・中立・公平」の基本原則に変わりはありません。総勢4万5000人のMSFスタッフが賛同するその原則とは、憲章のなかで述べられているものです。

## 一人ひとりの力と支援が束になり世界中で活動を展開

資金の独立性と透明性を保ち、どんな権力からの影響も受けず、最も必要とされる場所に援助を届ける——こうした原則を貫けるのは、活動資金の95%以上が民間からの寄付で賄われているためです。公的資金の割合を抑えることで、活動の

中立・独立・公平性を確保しているのです。

MSFは世界各地に38事務局を設置しています。1992年に発足した日本事務局には、約300人の医師や看護師、事務系スタッフが登録されています。常時40人ほどが海外に派遣され、昨年からのコロナ禍においても引き続き派遣活動が行われています。

MSF日本では医療系、非医療系を問わず幅広い人材を募集しています。また寄付によるご支援とともに、ボランティアやMSFのイベントに参加、活動をSNSでフォローしてくださる方も募っています。命の危機に瀕する人びとを救いたいという志のもと、一人ひとりが結集した団体が国境なき医師団です。同じ気持ちを持つ同志として、皆様の熱いご支援をお待ちしております。

国境なき医師団日本では、下記の職種で海外派遣スタッフを毎年募集しています。

### 医療スタッフ

内科医 外科医  
小児科医 整形外科医  
産婦人科医 麻酔科医  
救急医 疫学専門家  
手術室看護師 薬剤師  
助産師 臨床心理士

### 非医療スタッフ

ロジスティシャン(物流)  
・調達・電機・設備機材  
保全・車両整備・建築)  
アドミニストレーター  
(財務・人事管理責任者)  
プロジェクト・コーディネーター

国境なき医師団は活動地の状況や声を伝える活動にも力を入れ、ウェブサイトやSNSを通じて日々発信しています。また人材募集に関するお知らせも随時行っています。ぜひフォローしてご覧ください。

公式ウェブサイト  
[www.msf.or.jp](http://www.msf.or.jp)

Instagram @msf\_japan

Facebook msf.japan

LINE @msf\_japan

Twitter @MSFJapan

YouTubeチャンネル 国境なき医師団日本